

発行日：2014年02月20日

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

製品名 :PJ層間プライマー

製品種類:

ウレタン樹脂系プライマー

推奨用途 :塗り重ね用層間プライマー

会社名 :AGCポリマー建材株式会社

住所 :東京都中央区日本橋人形町1-3-8

電話番号 :03-6667-8420

FAX :03-6667-8431

作成担当部門 :品質管理グループ

緊急連絡先 :AGCポリマー建材株式会社

電話番号 :03-6667-8420

問合わせ先 :技術研究所

電話番号 :0480-22-6300

FAX :0480-25-4012

製品番号(SDS NO) :SDS01475-1

## 2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体:区分 2

健康に対する有害性

急性毒性(経皮):区分 5

皮膚腐食性及び刺激性:区分 3

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:区分 2B

生殖毒性:区分 2

吸引性呼吸器有害性:区分 2

環境有害性

水生環境有害性(急性):区分 3

水生環境有害性(長期間):区分 3

(注)記載なきGHS分類区分:該当せず/分類対象外/区分外/分類できない



注意喚起語:危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気

皮膚に接触すると有害のおそれ

軽度の皮膚刺激

眼刺激

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

水生生物に有害

長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

使用前に取扱い説明書を手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること/アースをとること。  
 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。  
 火花を発生させない工具を使用すること。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。  
 環境への放出を避けること。  
 保護手袋/保護眼鏡/顔面保護具を着用すること。  
 指定された個人用保護具を使用すること。

#### 応急措置

気分が悪い時は医師に連絡すること。  
 無理に吐かせないこと。  
 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。  
 皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。  
 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 暴露又は暴露の懸念がある場合:医師の診断/手当を受けること。  
 皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当を受けること。  
 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当を受けること。  
 火災の場合:消火するために指定された消火剤を使用すること。

#### 保管

#### 保管

施錠して保管すること。  
 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

#### 廃棄

内容物/容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

#### 有害性

有機溶剤中毒を起こす恐れがある。

#### 物理的及び化学的危険性

非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 :混合物質

慣用名、別名 :環境対応型溶剤系1液ウレタンプライマー

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号
ウレタンプレポリマー	20 - 30	非設定	-
プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート	15 - 25	108-65-6	2-3144
メチルシクロヘキサン	5 - 15	108-87-2	3-2230
炭酸ジメチル	45 - 55	616-38-6	2-2853

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

#### 危険有害成分

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

メチルシクロヘキサン

### 4. 応急措置

#### 吸入した場合

蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、温かく安静にする。  
 呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。  
 呼吸困難の時は酸素吸入を行う。  
 嘔吐物は飲み込ませないようにする。

直ちに医師の手当て/診断を受ける。

皮膚(又は髪)に付着した場合

付着物を布にて素早く拭き取る。

大量の水および石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。

外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。

目に入った場合

直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

まぶたの裏まで完全に洗うこと。

直ちに医師の手当て/診断を受ける。

飲み込んだ場合

意識のない被災者には何も飲物を与えてはならない。

安静にして直ちに医師の診断を受けること。

速やかに医師の治療(胃洗浄)を受けること。

嘔吐物は飲み込ませないこと。

医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

応急措置をする者の保護

救助者は適切な保護具(保護メガネ、防護マスク、手袋等)を着用する。

適切な換気を行う。

---

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用する。

小火災: 粉末消火剤、二酸化炭素、一般の泡消火剤

大火災: 散水、噴霧水、一般の泡消火剤

不適切な消火剤

水(棒状水、高圧水)

冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

棒状注水

特有の危険有害性

火災によって刺激性、有毒及び/または腐食性のガスを発生するおそれがある。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。

屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。

引火性の液体及び蒸気である。

特有の消火方法

消火活動は風上より行う。

可燃性のものを周囲から素早く取り除く。

指定の消火剤を使用すること。

高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。

粉末消火器あるいは炭酸ガス消火器で初期消火にあたる。

付近の可燃性のものを速く周囲から取り除き、保護具を着用して消火する。

消火を行う者の保護

保護衣を着用するほか、状況によっては、非浸透性手袋、保護メガネ、有機ガス用防毒マスク、給気式呼吸用保護具などの保護具を着用する。

適切な保護具(耐熱性着衣など)を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

付近の着火源・高温体および付近の可燃物を素早く取り除く。  
 回収が終わるまで十分な換気を行う。  
 風上から作業し、風下の人を退避させる。

**環境に対する注意事項**

河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。  
 床面等に付着した場合は、水道水で洗浄し、濃厚な洗浄水が河川等に流出しないように中和処理してから排水を行う。

**回収、中和 ならびに 封じ込め及び浄化の方法/機材**

回収後の床は、中和剤を散布して中和し、十分に水洗する。  
 中和剤の例：水/濃アンモニア水/液体洗剤(質量比)=90~95/3~8/0.2~0.5  
 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。  
 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。  
 付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を速く取り除く。  
 大量にこぼれた場合は、土砂で囲うなど排水溝への流出防止処置を講じた後、出来るだけ液の回収に努める。  
 こぼれた液を回収した容器は密閉せず、雨水の入らない安全な場所に移す。

**二次災害の防止策**

排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。  
 衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。  
 すべての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)  
 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

**7. 取扱い及び保管上の注意**

**取扱い**

**技術的対策**

**(取扱者のばく露防止)**

指定された個人用保護具を使用する。  
 皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、目に入らぬよう保護具を着用する。  
 取扱い後は手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。  
 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。  
 休憩所には、手洗い、洗眼などの設備を設け、取扱い後に手・顔等を良く洗う。  
 取扱いは換気の良い場所で行い、容器はその都度密栓すること。

**(火災・爆発の防止)**

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざける。ー禁煙。  
 容器を接地する/アースをとる。  
 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用する。  
 火花を発生させない工具を使用する。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずる。  
 作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。  
 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/工具を使用する。  
 静電気対策のため、装置等は接地し、有機溶剤雰囲気中安全な対策を講じた機器を使用する。  
 火気厳禁。周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。

**注意事項**

製品を運搬または貯蔵する時は、容器に破損のないことを確認する。  
 製品を長期に亘って貯蔵し、或いは製品を取り出し混合する等の作業を行う場合は地下浸透や汚染等を防止するため、シート等を敷いて行う。

**安全取扱注意事項**

取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。  
 本来の用途以外に使用しないこと。  
 容器はその都度密栓する。  
 屋外または換気の良い場所で取り扱う。  
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/顔面保護具/呼吸用保護具を着用する。  
 有機ガス用防毒マスクを着用する。

室内で取り扱う場合は、局所排気内、または全体換気の設備のある場所で取り扱う。

室温で引火する。

蒸気は空気より重く、低い所に滞留し爆発性混合ガスを作りやすい。

加熱により爆発する。

#### 配合禁忌等、安全な保管条件

##### 適切な保管条件

施錠して保管する。

子供の手の届かないところに保管する。

製品を長期に亘って貯蔵し、或いは製品を取り出し混合する等の作業を行う場合は地下浸透や汚染等を防止するため、シート等を敷いて行う。

長期間の貯蔵には定期的な点検も必要となる。

容器を密閉し、直射日光や雨水を避け換気の良い冷暗所に保管する。

よくフタをし、40℃以下の一定の場所を定めて貯蔵する。

##### 避けるべき保管条件

直射日光や雨水を避ける。

火気、熱源から遠ざけて保管する。

火気厳禁。可燃物を近くに置かない。

#### 配合禁忌

指定材料以外と混合してはならない。

#### 容器包装材料

可燃性があるため、小分けする時には帯電しない耐火性の容器を使用する。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

職業暴露限界値、生物学的限界値等の管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

(メチルシクロヘキサン)

日本産衛学会(1986) 400ppm; 1600mg/m<sup>3</sup>

(メチルシクロヘキサン)

ACGIH(1962) TWA: 400ppm (上気道刺激; 中枢神経系損傷; 肝臓および腎臓障害)

設備対策

屋内塗装作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。

取扱い設備は防爆型を使用する。

排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。

液体の輸送、汲み取り、攪拌等の装置についてはアースを取るよう設備にすること。

取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものを置かないこと。

洗眼、手洗い、洗顔設備を設ける。

密閉場所で作業する場合には、底部まで十分に換気できる装置を用いること。

保護具

呼吸用保護具

有機ガス用防毒マスクを着用する。

密閉された場所では送気マスクを着用する。

手の保護具

有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡／安全ゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護服(長袖作業着)、安全靴

取り扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗う。

この製品を使用するときは、飲食又は喫煙をしてはならない。  
汚染された衣類を脱ぐ。  
取扱い後はよく手を洗う。  
休憩、終業時はうがいする。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

### 物理的状态

形状 :液体

色 :淡黄色透明

臭い :芳香臭

pH :知見なし

### 物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点 :知見なし

分解温度 :知見なし

引火点 : (tag)-6°C

自然発火温度 :知見なし

爆発特性 :引火又は爆発範囲

    下限 :1.2vol %

    上限 :12.9vol %

蒸気圧 :知見なし

蒸気密度 :知見なし

比重/密度 :1.01(25°C)

### 溶解度

水に対する溶解度 :水と反応する

溶媒に対する溶解度 :トルエン、アセトン、酢酸エチル等の有機溶剤に可溶

n-オクタノール/水分配係数 :知見なし

---

## 10. 安定性及び反応性

### 安定性

常温常圧では安定である。

### 危険有害反応可能性

水と反応して二酸化炭素を発生する。この反応が密閉容器内で起こると、容器が膨れ、場合によっては破裂することがある。

酸化剤、酸、アルコール、アミン、塩基と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす可能性がある。

### 避けるべき条件

直射日光、炎、火花、加熱、高温、水、湿気を避ける。

### 混触危険物質

酸化剤、酸、アルコール、アミン、塩基、水

### 危険有害な分解生成物

燃焼により一酸化炭素、窒素酸化物などの有害ガスが発生する恐れがある。

---

## 11. 有害性情報

物理的、化学的及び毒性学的特性に関係した症状

局所効果データなし

感作性データなし

生殖細胞変異原性データなし

催奇形性データなし

発がん性データなし

短期/長期ばく露による即時/慢性影響データなし

吸引性呼吸器有害性データなし

その他情報



商品として危険有害性評価を行っていません。

---

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

#### 水生毒性

水生生物に有害

長期継続的影響により水生生物に有害

#### 水溶解度

(プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート)

19.8 g/100 ml (ICSC, 1997)

(メチルシクロヘキサン)

溶けない (ICSC, 1997)

(炭酸ジメチル)

溶けない (ICSC, 2005)

### 残留性・分解性

(メチルシクロヘキサン)

BODによる分解度:0%(既存化学物質安全性点検データ)

### 生体蓄積性

(メチルシクロヘキサン)

BCF=321(Check & Review, Japan)

### その他情報

※漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与える恐れがあるので取扱に注意する。特に、製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

---

## 13. 廃棄上の注意

### 廃棄方法

環境への放出を避ける。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄する。

廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約(マニフェスト)をして処理する。

容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。

廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき処理を行なう。

### 汚染容器及び包装

許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

---

## 14. 輸送上の注意

### 国連番号、国連分類

番号 :1866

クラス :3

容器等級 :II

正式品名 :樹脂液

指針番号 :128

### 輸送の特定の安全対策及び条件

容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

「取扱いおよび保管上の注意」の項の記載に従うこと。

直射日光、雨に暴露されないように運搬する。

陸上輸送: 消防法、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運搬方法に従うこと。  
海上輸送: 船舶安全法に定めるところに従うこと。  
航空輸送: 航空法の定めるところに従うこと。

---

## 15. 適用法令

毒物及び劇物取締法に該当する化学品を意図的成分として含有せず、購入原料に不純物として含有するとの情報を受けていません。

労働安全衛生法

別表第1 危険物(第1条、第6条、第15条関係)

危険物・引火性の物(-30℃ ≤ 引火点 < 0℃)

名称通知危険/有害物(第57条の2、令第18条の2別表9):

メチルシクロヘキサン(区分内番号576)

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法

第4類 引火性液体第1石油類非水溶性液体 危険等級 II

適用法規情報

この物質に関する国又は地方の規制を遵守してください。

---

## 16. その他の情報

参考文献

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 17th edit. UN

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2013 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/monoeval/grlist.html>

JIS Z 7253 (2012年)

原材料/製品メーカーSDS

国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版

化学工業日報社編集「16112の化学商品」

社団法人日本塗料工業会「GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック[混合物用(塗料用)]改訂第2版」

海文堂「危険物船舶運送及び貯蔵規則15訂版」

独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) <http://www.nite.go.jp/>

責任の限定について

すべての化学品には未知の有害性がありうる為、取扱いには細心の注意が必要です。

この情報はこの特定の材料に関するものであり、この材料が他の材料と組み合わせられたり、処理されたときは無効です。この情報を自分自身の独特な取扱いに適合させ完全で満足できるものとする責任はユーザーにあります。

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

安全データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。